

CSR経営への取り組み

「GD100」の基本方針に謳われたCSRの考え方をもとに
トリプルボトムラインの均衡がとれた経営を進めます

CSR経営ビジョン

社会から揺るぎない信頼を得ている地球貢献企業になる

CSR行動指針

- 変化し続ける社会動向をつかむ
- 貢献できる課題を見極める
- 迅速に行動し揺るぎない信頼を得る
- 一人ひとりがCSR当事者として行動する

CSRに関する基本的な考え方

CSR(Corporate Social Responsibility)の「Responsibility」の意味を、社会から「その行動が認められ、信頼されること」、つまり信頼性、信頼度と解釈しています。義務、責任として行動するのではなく、「ステークホルダーからの期待に応える」立場からの経営によって

のみ、企業価値の向上が望めると考えています。先駆けた環境経営に加え、2008年6月に実施した「社会性への行動」に向けた組織、体制の整備によって、トリプルボトムライン(経済、環境、社会)の均衡がとれた経営を進捗させることを目指しています。

「GD100」に基づきCSR経営を強化

2006年4月からスタートさせた新中期経営計画「GD100」で「良いモノを、安く、タイムリーに」、「トップレベルの環境貢献企業になります」、「高い倫理感を持ち、顧客最優先の企業風土を作り上げます」の3つの基本方針を掲げ、2008年にはさらにCSR経営を進捗させるため、組織・

体制を刷新しました。まず6月に法令順守、環境貢献、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、内部統制をより強化するため、執行の責任部門としてCSR本部を設置。さらにCSR経営統括体制として、社長を議長とするCSR・環境推進会議を設置しました。

創業の精神について

横浜ゴムは、1929年、中川末吉社長が当時建設した横浜工場(横浜市鶴見区)開設に際して述べた訓語を創業の精神にしています。この創業の精神には、今日のCSR経営に通じる社会性と経済性の両立が謳われています。



中川 末吉(1874~1956)
実業家。1888年、古河本店入社。
古河市兵衛に見込まれ、エール大学に留学後、横浜電線の重役に。
1924~1939年、当社取締役社長。

創業の精神

- 一、生産事業は社会奉仕なり。すなわち人類生活の幸福増進を目的とするものなるがゆえに、良品を廉価に、便利なるものを提供するを目的とすべし。
- 二、優秀品を提供することを根本方針とし、また他の追従を許さざることを生命とすべし。
- 三、経営はあくまで公平親切を旨とすべし。公明正大なる経営者は資本に対する保証、労働者に対する分配、消費者に対する義務を公平に、いわゆる合理的分配を行うことによつて、その任務とすべし。
- 四、機械力を充実に従業員をなるべく少なくすべし。これ能率向上の要諦なり。
- 五、事業の成否は一生懸命熱心に勉強して、互いに向上発展を期せんとする努力の大小によるものなるがゆえに、大努力を試みるべし。